

# 福音書の由来

## 1. 過去

## 2. 現在

「この福音書の歴史的真理について判断するために、この指針が積極的に指摘していることが、さらに注目に価する。つまり、歴史的人物としてのイエスから始まって福音書が作成されるまで、三つの時期ないし段階があったことを自覚しなければならないということである。つまり、まずイエスが人間として生きて活動した時期、つぎにそのイエスを死と復活後キリストとして弟子たちが信じ、宣べ伝えた時期、最後に福音記者が福音書を作成した時期を区別するということである。」(福音書の歴史的真理に関する指針・教皇庁聖書委員会)

### ◆ 福音書が作成されるまでの三つの時期 (段階)

1. イエスの生涯
2. イエスの死と復活後に出来上がったキリスト者の共同体の宣教活動
3. 福音書の作成

### ◆ 「福音」と「福音書」

- 📖 「ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。」マコ 1:14-15
- 📖 「議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。」使 15:7
- 📖 「神の子イエス・キリストの福音の初め。」マコ 1:1
- 📖 「そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。」エフェ 4:11

## 3. 福音書が作成されるまでの三つの時期 (段階)

### 3. 1. 第1期間 (段階) — イエスの生涯 (パレスチナにおけるイエスの行動と教え)

「主はその口をもって教えを説かれたとき、当時一般的であった考え方と言い方に従われた。こうして聴衆の理解にご自分をあわせるようにされ、教えたことがしかと脳裏に刻まれ、弟子たちによって容易に記憶にとどめられるようにされた。この彼らは、人々がキリストを信じるようになり、救いの教えを信仰をもって受容するようになるために行われた事実ないし整えられた事実として、イエスの生涯に起きた奇跡やその他の出来事を正しく理解したのだった。」(福音書の歴史的真理に関する指針・教皇庁聖書委員会)

#### 3.1.1 イエスの言語

- 📖 「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない。」マタ 22:14
- 📖 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」マタ 6:24
- 📖 「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」ルカ 14:26
- 📖 「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。」マタ 10:37

#### 3.1.2 文化

#### 3.1.3 当時の世界観

#### 3.1.4 社会・経済・政治的な現状

### 3. 2. 第2期間(段階) — イエスの死と復活後のキリスト者共同体の宣教活動

#### ◆ 啓示 (イエスの言葉と行い)

☞ 「わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虐げを御覧になり、力ある御手と御腕を伸ばし、大いなる恐るべきこととしるしと奇跡をもってわたしたちをエジプトから導き出し、この所に導き入れて乳と蜜の流れるこの土地を与えられました。」申 26:7-9

#### ◆ 弟子の使命

「主キリストは、弟子たちを選んでご自分の同伴者とされた。弟子たちはその始めから主に従い、主の活動を目撃し、言葉を聞いた。このように彼らは主の生涯と教えの証人となるために適格者となった。」(福音書の歴史的眞理性に関する指針・教皇庁聖書委員会)

- ☞ 「そこで、十二人を任命し、使徒と名付けられた。彼らを自分のそばに置くため、また、派遣して宣教させ、悪霊を追い出す権能を持たせるためであった。マコ 3:14-15
- ☞ 「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」マタ 28:19-20
- ☞ 「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。」マタ 10:40
- ☞ 「そこで、主イエスがわたしたちと共に生活されていた間、つまり、ヨハネの洗礼のときから始まって、わたしたちを離れて天に上げられた日まで、いつも一緒にいた者の中からだれか一人が、わたしたちに加わって、主の復活の証人になるべきです。」使 1:21-22

「使徒たちは、イエスの証しを立てながら、特にその主の死と復活を告げ、また聴き手が置かれている状況と宣教の仕方を考慮しながら、その生涯と言葉を忠実に説明したのだった。イエスが死者の中から復活し、その神性が明らかに見抜かれるようになってから、起こった出来事の記憶を信仰が消し去るのではなく、むしろその記憶を確かなものとした。なぜならその信仰はイエスが行われたこと、お教えになったことに基づくものだったからである。またそのとき以来弟子たちがイエスを主として、神の御子として敬うようになった祭儀のために、このイエスが《神話的》人物に変えられてしまうこともなく、その教えが改変されてしまうこともなかった。使徒たちがその主によって実際に言われたこと、行われたことをいっそう充実した理解をもってその聴き手に伝えたということも拒否する理由はない。その理解はキリストの栄えある出来事によって導かれ、真理の霊の光によって教えられて与えられたものであった。それゆえ、イエス御自身が復活後、旧約聖書の言葉にしても、御自分の言葉にしても《彼らに解釈なさった》ように、彼らもその主の言葉と行動を、聴き手の必要性が求めるのに応じて解釈した。《言葉の奉仕者として》、自らの発意と聴き手の思考に合ったいろいろな表現法を用いて、彼らは宣教した。《ギリシア人にも未開の人にも、賢者にも愚者にも》責任を負うたからである。当時の宣教者たちがキリストを告げたこれらの話し方は、区別して検討する必要がある。つまり聖書の中にあり、当時の人々が慣用とした文学様式として、要理教授、語り、証し、賛美、讃栄、祈りなどがある。」(福音書の歴史的眞理性に関する指針・教皇庁聖書委員会)

#### ◆ 新しい理解

- ☞ 「弟子たちは、イエスが湖上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、大声で叫んだ。皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐ彼らと話し始めて、「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。イエスが舟に乗り込まれると、風は静まり、弟子たちは心の中で非常に驚いた。パンの出来事を理解せず、心が鈍くなっていたからである。」マコ 6:49-52
- ☞ 「イエスはそれに気づいて言われた。「なぜ、パンを持っていないことで議論するのか。まだ、分からないのか。悟らないのか。心がかたくなになっているのか。目があっても見えないのか。耳があっても聞こえないのか。覚えていないのか。」マコ 8:17-18

- 📖 「イエスは、十二人を呼び寄せて言われた。「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子について預言者が書いたことはみな実現する。人の子は異邦人に引き渡されて、侮辱され、乱暴な仕打ちを受け、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する。」十二人はこれらのことが何も分からなかった。彼らにはこの言葉の意味が隠されていて、イエスの言われたことが理解できなかったのである。」ルカ 18:31-34
- 📖 「わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださいと望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。」ルカ 24:21
- 📖 「シモン・ペトロが、「わたしは漁に行く」と言うと、彼らは、「わたしたちも一緒に行こう」と言った。彼らは出て行って、舟に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。」ヨハ 21:3
- 📖 「そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。」ルカ 24:25-27
- 📖 「わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてくださる。」ヨハ 14:25-26
- 📖 「言っておきたいことは、まだたくさんあるが、今、あなたがたには理解できない。しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる。その方は、自分から語るのではなく、聞いたことを語り、また、これから起こることをあなたがたに告げるからである。」ヨハ 16:12-13
- 📖 「一同が山を下りるとき、イエスは、「人の子が死者の中から復活するまで、今見たことをだれにも話してはならない」と弟子たちに命じられた。」マタ 17:9
- 📖 「イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。」ヨハ 2:22
- 📖 「弟子たちは最初これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて書かれたものであり、人々がそのとおりにイエスにしたということを思い出した。」ヨハ 12:16

	神	アダム	アブラハム モーゼ	お告げ	誕生	洗礼	十字架	復活
パウロ 49-56								
マルコ 65-75								
マタイ 70-100								
ルカ 70-100								
ヨハネ 85-100								

◆ パレスチナの共同体

- 📖 「すると、ペトロは十一人と共に立って、声を張り上げ、話し始めた。「ユダヤの方々、またエルサレムに住むすべての人たち、知っていただきたいことがあります。わたしの言葉に耳を傾けてください。」使 2:14
- 📖 「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」使 2:41-42

- ※ 共同体の特徴
  - ◇ 使徒の教えに聞き従う
  - ◇ 一致
  - ◇ パンを裂く（キリストの記念・ミサを祝う）
  - ◇ 祈り
  
- ※ 一致
  - ◇ 共通の信仰
  - ◇ 共通の目的
  - ◇ 共通の生き方
- ※ 多様性
  - ◇ 異教徒に福音を宣べ伝える宣教師
  - ◇ 洗礼を受けた人に教える教師（カテキスタ）
  - ◇ キリスト教を弁護する弁証者

- ※ 基本的なメッセージのパターン（Kerygma (Greek: κήρυγμα, kérugma)）
  - ◇ 神がその民に与えた約束が成就されました。
  - ◇ 人々が長い間待ち望んだダビデの子孫であるメシアが既に来られました。
  - ◇ ナザレのイエスがそのメシアです。
    - 神の力によって善とするしを行いました。
    - 十字架に付けられました。
    - 復活してから、栄光とすべての権威を与えられました。
  - ◇ 裁くために再び来られます。
  - ◇ それゆえ、イエスを信じて、罪をゆるしていただくために洗礼を受けなければなりません。

📖 「更に、既婚者に命じます。妻は夫と別れてはいけない。こう命じるのは、わたしではなく、主です。」 1 コリ 7:10

📖 「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。」 1 コリ 11:23-24

📖 「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」 使 20:35

#### ◆ 生ける伝承・メッセージを現状に適應する

### 3. 3. 第3期間（段階） — 福音書の作成

- ◇ 初代教会には新しい（イエスが活動をなさった時になかったような）問題や困難が生じていました。福音記者たちは、この問題をイエスの教えに基づいて解決するために、その文書（福音書）を書きました。聖霊の導きに従って、福音記者が、確かで、間違いのないようなやりかたで、キリストの教えを教会があつた新しい現状に適應することができたと私たちが信じています。
- ◇ 一人ひとりの福音記者が異なる現状にあつて、異なる問題や困難にあつた共同体のためにその福音書を書きましたので、最初から一人ひとりが別の目的を目指して、それぞれの計画を立てました。
- ◇ その計画を果たすために最も適當と思うような方法を選びました。
- ◇ 福音記者は、イエスの生活に起こつた出来事をそのまま伝えたのではなく、前の段階にもあつたように、それを編集したり、解釈したりして行いました。
- ◇ 福音記者一人ひとりには、性格とか生まれた環境や受けた教育が異なつていたし、イエスの教えや神学の課題に関する好みも異なつていました。